

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科等名	総合的な探究の時間
研究課題	<p><b>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</b></p> <p>○総合的な学習の時間の取組を基盤とし、質の高い探究を通して資質・能力を育成する「総合的な探究の時間」の実現に向けた指導計画や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、学習評価の在り方に関する研究</p>				
ふりがな 学校名（生徒数）	ほっかいどうくしろこうなんこうとうがっこう 北海道釧路江南高等学校（594人）				
所在地（電話番号）	北海道釧路市光陽町24番17号				
研究内容等掲載ウェブサイトURL	<a href="http://www.k-konan.hokkaido-c.ed.jp">http://www.k-konan.hokkaido-c.ed.jp</a>				
研究のキーワード	カリキュラム・マネジメント，3カ年の指導計画，教員の指導力向上，効果的なICT活用，江南力の育成と評価				
研究結果のポイント	<p>○カリキュラム・マネジメントの視点に立って，江南力の教員間の共通理解を図ることができた。</p> <p>○3カ年を見通した指導計画を作成し，実践することができた。</p> <p>○教員の指導力向上の取組を行うことができた。</p> <p>○総合的な探究の時間における効果的なICTの活用方法を実践することができた。</p> <p>○江南力の育成について評価・検証を行うことができた。</p>				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

「高い理想を抱き，自ら課題を発見し，自ら学び，考え，判断し，よりよく解決する」資質・能力を育む「総合的な探究の時間」における組織体制の構築及び指導方法の研究

### (2) 研究主題設定の理由

本校は，平成30年度から総合的な学習の時間の取組を基盤とし，生徒が「生徒の興味・関心に基づく課題」及び「職業や自己の進路に関する課題」を設定し，質の高い探究を通して，資質・能力を育成しようとして試みてきたが，その内容の充実を図る指導計画の作成や，持続性ある業務運営を図るための組織体制の構築が必要であることがわかった。

そのため，上記のような研究主題を設定し，

ア 内容の充実を図る指導計画の作成と改善

イ 持続性のある業務運営を図るための組織体制の構築

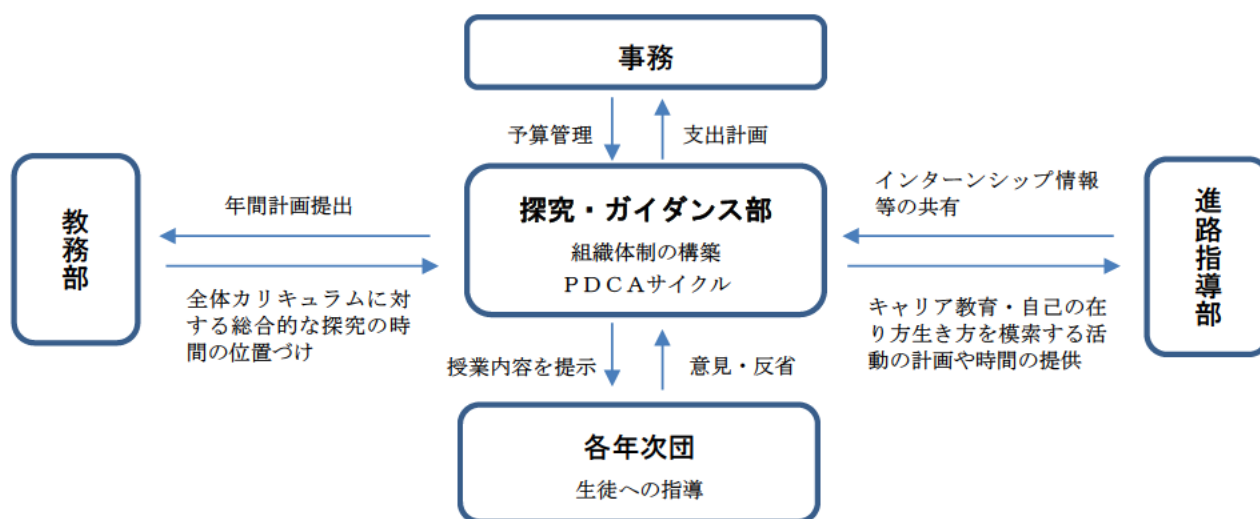
について研究することとした。

### (3) 研究体制

「探究・ガイダンス部」が主体となり，「総合的な探究の時間」の指導計画及び研究計画を立案した。カリキュラム・マネジメントについての共通理解を図るために，教務部により総合的な探究の時間の全体カリキュラムに対する位置付けを明確にし，進路指導部と自己の在り方生き方に向き合った探究課題を設定できるように協働した。立案された計画は，各年次団とホー

ムルーム担任や副担任を中心に指導し、指導に係る意見や反省を探究・ガイダンス部が集約し、PDCA サイクルを構築することができた。

<図>本校の「総合的な探究の時間」に係る取組の流れ



(4) 2年間の主な取組

令和2年度	4月	探究・ガイダンス部の設立，年間指導計画の作成
	5～7月	1年次：進路探究活動 2年次：探究課題の設定 3年次：進路探究活動，志望理由書作成の運営
	8～10月	1年次：プレ探究活動の開始・2年次中間発表の聴講 2年次：探究活動と中間発表 3年次：選択探究の実施
	11月	総合的な探究の時間における評価ルーブリック作成
	12月	成果発表会「江南探究フォーラム」の企画
	1月	江南カピクトグラム完成 3年次：個人探究成果発表会
	2月	江南探究フォーラム実施，生徒相互評価用紙完成，年度末反省の実施
	3月	江南探究フォーラム入賞者選定及び発表，探究活動振り返りの実施，次年度の計画立案，ICTに係る校内研修の実施

令和3年度	4月	総合的な探究の時間の年間指導計画作成
	5～6月	総合的な探究の時間の改善・充実，生徒の実態把握のための調査の作成，授業評価アンケートの実施
	7月	生徒の実態把握のための調査①実施，ICTに係る校内研修の実施
	8～9月	総合的な探究の時間の改善・充実
	10月	2年次：中間発表
	11～12月	総合的な探究の時間の改善・充実
	1月	授業評価アンケートの実施，探究・ICTに係る教員アンケートの実施，生徒の実態把握のための調査②実施
	2月	探究発表会「江南探究フォーラム」の実施，年度末反省

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 令和3年度研究内容

- ア 探究学習の質を向上させるための教員の指導力向上
- イ 総合的な探究の時間における効果的な ICT の活用方法
- ウ 江南力や批判的思考力の育成と，その効果の評価・検証

### (2) 令和3年度の具体的な研究活動

- ア 探究学習の質を向上させるための教員の指導力向上

#### ① 探究・ICT 文庫の作成

購入図書による探究・ICT 文庫を作成し，教員が必要に応じて図書を借りられる体制を作った。分掌部長や学年主任などを中心に借りられることがあったが，あまり多くの教員が借りている状況ではない。

#### ② 探究活動の共有と実態把握

質の高い探究活動がどのようなものか分からない，という声が聞かれたため，総合的な探究の時間の生徒の活動について，教員がルーブリックを用いて評価を行う体制を整えた。ルーブリックを示すことで，生徒も教員も到達目標を意識しやすくなった。

また，1月に実施した教員向けアンケートで教員が指導上困難と感じていることを集約した。その結果，教員は多くの生徒が成長したと感じているわけではないことがわかった。しかし，生徒に同様のアンケートを行ったところ，「どの力についても身に付いた」，「非常に身に付いた」があわせて8割以上となっており，教員の実感の方が低いことが読み取れた。同時に，一定数は質の高い取組が分からず，適切な問いの設定を指導できていない姿が浮かび上がった。

- イ 総合的な探究の時間における効果的な ICT の活用方法

- ① ICT 機器研修会の実施
- ② 無線 LAN 環境の整備
- ③ アプリ・本校ホームページの利用

- ウ 江南力や批判的思考力の育成と，その効果の評価・検証

### ① 江南力啓発ポスターの掲示

日常的に生徒が江南力について意識できるように、全普通教室にポスターを掲示した。

### ② 総合的な探究の時間における江南力アンケート

生徒アンケートを実施し、江南力が伸長した実感について回答を得た。13項目について、「4 とても伸びた、3 少し伸びた、2 あまり伸びなかった、1 全く伸びなかった」の4段階とした。

＜アンケートの分析＞

- ・全項目で、「とても伸びた」と「少し伸びた」が80%以上であった。  
→概ね総合的な探究の時間を通して江南力を身に付けることに肯定的である。
- ・とても伸びたと答えた生徒よりも少し伸びたと答えた生徒が多い。  
→とても伸びたと感じる生徒を増やしていくことが今後の課題である。
- ・全く伸びなかったと感じている生徒は全項目でほとんどいない。  
→教員よりも生徒の方が能力伸長の実感が高い。
- ・学年ごとに分析した結果、上級年次になるほど、江南力が身に付いたと実感する生徒が多い傾向にあった。特に、3年次は2年次で1年間個人探究活動を行ったため、江南力が身に付いたと実感していた。

## 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 「質の高い探究が分からない」ことや「問いを立てるのが難しい」ことに困難さを感じている教員が少なくなく、今後は一つ一つの活動の評価規準を作成していき、その地点に到達できていない生徒に対してどのようにアプローチしていくかなど、探究のプロセスに応じたより詳細な指導方法の共有が求められる。
- 総合的な探究の時間の全体発表やルーブリックを用いた評価などを通して、質の高い探究活動を目にする機会や理解する場面を増やすことができた。
- ICTを活用することによって、発表や生徒の進捗状況の把握などが容易になった。
- ICTに不慣れな生徒や教員も多いことから、使用方法を学ぶ時間や研修の機会などを確保していくことが必要となる。
- 総合的な探究の時間によって江南力が身についたと感じている生徒が多数いることがわかった。
- 総合的な探究の時間によって江南力が「とても伸びた」と感じている生徒は限られていることから、多くの生徒にとって深い学びとなるように改善する必要がある。

## 4 今後の取組

総合的な探究の時間の活動が深い学びとならない原因は、問いを立てることが難しく自分事としてとらえられていないことや、校内アンケートなどの狭い範囲で探究活動を終えており、地域へ探究のフィールドを広げていないこと、また、教員の指導方法が確立されていないことなどが考えられるため、次年度以降も改善し続けていく必要がある。問いの立て方については教員、生徒双方に苦手意識があるため、全体指導や校内研修によって問いの立て方を学んでいくことが求められている。また、ICT導入の効果があったため、使用についての研修や指導を随時行い、より積極的に使用できる体制を整えていきたい。